

各 位

会 社 名 北海道コカ・コーラボトリング株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 北 島 義 俊
(コード番号 2573 東証第2部・札証)
問 合 せ 先 取締役経理部長 栗 林 忠 道
T E L (0 1 1) 8 8 8 2 0 5 1

業績予想の修正に関するお知らせ

デフレ経済が進行するなかで、北海道コカ・コーラグループは経営基盤の確立に向けて諸施策を推し進めて参りましたが、依然として厳しさを増すマーケット環境に対処するため、今中間期に下記の通りコスト構造改革を実施いたしました。これに伴い、決算発表時(平成 16 年 2 月 18 日)に公表した平成 16 年 12 月期(平成 16 年 1 月 1 日～平成 16 年 12 月 31 日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

《構造改革について》

1. 新企業年金制度の認可・設立

本年 6 月 1 日に新企業年金の認可を受け、新たに「北海道コカ・コーラ企業年金基金」を設立いたしました。制度内容は、終身の確定給付年金で、従来の制度が保証期間 10 年のところ 15 年に、予定利率等 5.5%を 3%に、また、第二年金として旧プラス 部分の財源で 60 歳から 64 歳までの 5 年間の有期年金を設けたものです。

当社厚生年金基金の 5 月末 P B O (退職給付債務)は 285 億円でしたが、新企業年金発足時の P B Oは 230 億円と 55 億円減少しました。これに伴い、今中間期に特別利益を連結で約 43 億円(個別約 41 億円)計上するほか、通期では退職給付費用が連結で約 4 億円(個別約 3 億円)減少し、移行時差異も連結、個別ともに約 1 億円減少する見込みです。

2. 早期退職優遇制度の実施

本年 5 月末に年齢構成の是正や適正人員体制の確立による経営基盤の強化を図るため「早期退職優遇制度」を実施し、グループ全体で 276 名(個別 133 名)が本年 6 月 30 日付をもって退職することとなりました。これに伴う特別退職加算金等の支出は連結で 3,056 百万円(個別 1,529 百万円)で今中間期に特別損失として計上いたします。

また、今後の人件費の削減額は、連結で年間約 22 億円(個別約 11 億円)が見込まれます。

3. 製造設備の集約、効率化

缶製品の減少に伴い来年 3 月末までに帯広工場を閉鎖するとともに、本社工場をリニューアルし、製造ラインを集約し効率化を図ってまいります。リニューアルに要する投資金額は 2,280 百万円で、全て自己資金でまかなう予定です。これによる次年度投資効果は約 3 億円が見込まれます。

4. 子会社の構造改革

(1) 子会社の統廃合

自動販売機による飲食品販売会社である北海道キャンティーン株式会社と株式会社エフ・ヴィ北海道を平成 16 年 6 月 30 日付で解散し、新たに設立した北海道ビバレッジサービス株式会社(資本金 10 百万円)が本年 7 月 1 日より両社の業務を引き継ぎ、営業いたします。効率的なルート運営等によりメリットがでるものと考えています。

なお、両社解散による解散損失が約 10 億円見込まれますが、連結業績には影響ございません。

(2) 子会社の業務見直し

幸楽輸送株式会社は、当社から受託している入出庫業務を本年 7 月 1 日から外部委託することにいたしました。これによる効果は年間 4 億円が見込まれます。

なお、これらの措置により、退職一時金等が 495 百万円発生いたします。

《業績修正について》

1. 平成 16 年 12 月期中間業績予想数値の修正（平成 16 年 1 月 1 日～平成 16 年 6 月 30 日）

（1）連 結

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A） （平成 16 年 2 月 18 日発表）	37,600	200	300	550
今回修正予想（B）	36,000	650	800	2,000
増減額（B - A）	1,600	450	500	1,450
増 減 率	4.3	-	-	-
前中間期（平成 15 年 12 月期）実績	37,508	419	272	842

（2）個 別

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A） （平成 16 年 2 月 18 日発表）	34,000	100	50	200
今回修正予想（B）	32,000	200	300	1,200
増減額（B - A）	2,000	300	350	1,000
増 減 率	5.9	-	-	-
前中間期（平成 15 年 12 月期）実績	33,639	200	36	959

2. 平成 16 年 12 月期通期業績予想数値の修正（平成 16 年 1 月 1 日～平成 16 年 12 月 31 日）

（1）連 結

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A） （平成 16 年 2 月 18 日発表）	81,000	750	600	300
今回修正予想（B）	77,000	750	600	1,200
増減額（B - A）	4,000	-	-	900
増 減 率	4.9	-	-	-
前期（平成 15 年 12 月期）実績	77,696	659	569	70

（参考）1 株当たり予想当期純利益(連結) 32 円 81 銭

(2) 個別

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成16年2月18日発表)	73,000	1,100	1,000	200
今回修正予想(B)	70,000	1,100	1,000	550
増減額(B-A)	3,000	-	-	750
増減率	4.1	-	-	-
前期(平成15年12月期)実績	69,709	176	12	356

(参考) 1株当たり予想当期純利益(個別) 15円04銭

3. 修正の理由

(1) 中間期業績予想数値の修正理由

- ・販売数量の減少と品種構成の変化による粗利益の減少により、営業利益および経常利益は減少する見込みであります。
- ・新企業年金制度の認可・設立による、退職給付債務の減少部分(連結55億円、個別50億円)の過去勤務債務とその減少部分に係る未認識数理計算上の差異および会計基準変更時差異の未処理額控除後の損益を発生年度の損益と認識し、特別利益(連結43億円、個別41億円)に計上いたしますが、税効果会計による法人税等調整額の影響や、早期退職優遇制度の実施による特別退職加算金(連結30億円、個別15億円)、子会社解散損(個別10億円)、退職一時金(連結5億円)を特別損失に計上することにより、中間純利益は大きく減少する見込みであります。

(2) 通期業績予想数値の修正理由

- ・売上高の減少による利益の減少を、今中間期での構造改革の実施によるコスト削減効果等により補い、営業利益および経常利益は、前回予想利益を確保する見込みであります。

*業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって業績予想とは大きく異なる可能性があります。

以 上